

消費者向けネットワークスライシング

米Verizon、ネットワークスライシングを活用したビデオ通話品質強化機能を発表

Verizonは、ビデオ通信アプリケーションからのデータをインテリジェントに適応・管理し、ユーザーに優れた通話体験を提供する「Enhanced Video Calling」を開始した。

機能	<ul style="list-style-type: none"> Facetime、WhatsApp、Zoomなどのビデオ通信アプリにおいて高品質な通話品質を提供 映像の解像度が向上し、オーディオと映像の途切れが軽減される ネットワーク混雑時に特に役立つ
技術	<ul style="list-style-type: none"> 5G SA/ネットワークスライシング
料金	<ul style="list-style-type: none"> 無料（最上位プランの特典として提供）
利用条件	<ul style="list-style-type: none"> 最上位プラン加入 エリア：ミリ波・ミッドバンド5G対応エリアの一部で利用可能。開始当初は150以上の都市の一部エリアで対応。2025年にさらに拡大予定 対象端末：iOS18.2を搭載したiPhone14、Galaxy S23、Pixel9以降、今後拡大予定。開始当初はiPhoneのみが対象
利用方法	<ul style="list-style-type: none"> 利用条件が満たされると、自動的に有効化 アプリの初回利用時に通知が表示される

法人向けネットワークスライシング

仏SFR、法人企業に2つのネットワークスライシングオプションを提供開始

SFRは、[5G SAを利用した2つの差別化された接続オプション](#)を提供開始した。

- Slice Enterprise
 - 特権的インターネットアクセス：データ伝送効率化
 - セキュリティの強化：ネットワーク上でのデータ保護、5G SA SIMカードによる加入者識別子暗号化
 - 価格：月額3ユーロ/回線(税抜き)
- Slice Plus
 - Slice Enterpriseの機能
 - 帯域予約による無線リソースへのアクセス保証：重要なデータを強化されたサービス品質で伝送
 - 価格は個別に見積もり

SFRは、サポートするアプリケーションのニーズに応じて、帯域幅、遅延、セキュリティ要件を満たすように各スライスを設定し、サービス品質、トラフィックの優先度管理、動的なリソースの可用性を保証する。



ネットワークスライシング・プライベート5G

シンガポールSingtelとEricsson、完全自動化5G港湾の開発で提携

両社は、2040年代までに完全自動化港湾建設を目指す港湾会社PSAの計画を支援するためにトゥアス港に高度な5Gソリューションを導入すると発表した。

- 自動搬送車(AGV)の5G対応：**
貨物のリアルタイム追跡強化、クレーン作業合理化、貨物のシームレスな輸送を実現
- ネットワークスライシング導入：**
重要ミッションを遂行するアプリケーションが24時間スムーズに動作するために専用リソースを提供
- プライベートネットワーク構築：**
港湾特有のセキュリティニーズに対応

トゥアス港は現在3.5GHz、2.1GHz、700MHzで完全にカバーされている。2025年以降、PSAのAGVは、ネットワークスライシングにより、コンテナを単独で輸送できるようになる。また、超高信頼性と低遅延の通信により、オペレーターは安全な場所から、遠隔操作クレーンを使って、巨大な貨物を正確に操作することができるようになる。PSAは、今後3年間で5Gを活用したドローン監視やARアプリケーションを含む予知保全を模索する予定。

AI(人工知能)向けネットワーク

米Verizon、NVIDIAと提携し、プライベート5G・MECでAIワークロードを強化

Verizonは、プライベート5GとプライベートMEC上で幅広いAIアプリケーションを実行可能とするソリューションをNVIDIAと共同開発した。両社は、Verizonのプライベート5GとプライベートMECを、NVIDIAのAI向けソフトウェアプラットフォームであるAI Enterpriseおよび生成AIアプリケーションを開発するためのマイクロサービスであるNIMと組み合わせ、企業顧客にリアルタイムのAIサービスを提供する。Verizonは、2025年2月に本件のデモを開始する予定。

ソリューションの主なメリットは以下の通り。

- リアルタイムのAI処理に必要な**超低遅延**を実現
- プライベート5Gの専用帯域と強化された信頼性**によりデータ集約型AIワークロードに最適な性能を保証
- 機密性の高いAIワークロードを扱う企業に不可欠なデータとアプリケーションに対する**セキュリティと制御を強化**
- 業界やユースケース固有のニーズに応じてカスタマイズし、成長に対応できる**拡張性と柔軟性**を提供
- MECを使用して、AIアプリケーションのワークロードやサービスを拠点のエッジで実行することにより、**計算集約型アプリケーションがインターネットを経由せず、ローカル処理と推論による迅速な意思決定が可能**

Network API

仏通信事業者4社、Network APIの提供で協力。KYC Matchを全社が提供する国は世界初

Bouygues Telecom、Free、Orange、SFRは、アプリ開発者や企業がオンライン詐欺に対処し、モバイル顧客のデジタルIDを保護するためのサービス提供に向け協力すると発表した。各社は、通信事業者間の仕様統一を目的としたCAMARA規格に基づく以下のNetwork APIを2025年上期に商用化する計画。

- KYC Match**：企業が新規顧客の審査の際に顧客が提供する情報と、通信事業者が保持する記録を照合できるようにする。フランスは、全ての主要事業者がこのAPIを提供する世界初の国となる
- SIM Swap**：電話番号とSIMカードの関係が最近変更されたか確認可能とし、SIMカード乗っ取り詐欺を防止する
- Number Verify**：SIMカードを使用した、SMSワンタイムパスワードより強力でシンプルなユーザ体験を可能とする認証を提供。一部事業者が既に提供済み

これらのAPIは、金融機関と提携して開発、試験されている。フランスでは、**既に20以上の企業が、通信事業者のAPIを使用し**、詐欺の防止や、取引や登録プロセスにおける顧客の身元確認に役立てているという。

6G

欧州委員会の電波政策グループ(RSPG)、6G戦略ビジョンに関する報告書草案を公開

<草案の概要>

主な調査・検討項目

- ITU-Rが定義した6G利用シナリオによる影響
- モバイル網の高密度化
- モバイルと固定ブロードバンドのNW統合
- 免許不要のモバイル技術利用
- サービス間(異なる無線通信アプリケーション間)の共用に重点を置いた共用ソリューション**

通信事業者、研究者などの意見

- 全国エリア構築には低帯域(1GHz帯以下)が不可欠。これは将来的に非地上NW(NTN)により補完される可能性あり
- 都市部や新たなユースケース実現には6GHz帯の上位帯域や7-15GHz帯が必要
- 通信事業者毎に200MHzのミッドバンドが必要
- 通信事業者とローカル/プライベート網間の周波数共用を技術開発の初期段階から検討すべき
- 協調型モバイルロボットなどの限られたエリアでのユースケースでは、スモールセルが使用される可能性がある。カバー範囲は限定されるが、ミリ波やサブTHz帯により、さらに高速、大容量の要件を満たすことができる

RSPGは、市場形成を促進するために、今後、6Gで活用される可能性のある周波数帯を特定し、6G周波数ロードマップを進化させる予定。また、**革新的周波数共用ソリューションの検討を予定**している。